



賢者の相手は誰でも良いが 愚者の相手は賢者でなければ勤まらぬ

校長 牧野光洋



この頃、家の軒先に鯉のぼりが掲げられる風景が少なくなりました。自分が子供の頃には、庭先に鯉のぼりをあげる柱が立っており、毎朝、鯉のぼりをあげていたことを思い出します。

連休も終わり、昨年度経験した苦しい学校休校中とは異なり、学校生活も少しずつ軌道に乗ってきました。例年ですと、学級作り、学年作りも兼ねてお家の方々が一生懸命に作っていただいたお弁当をもって遠足という季節ですが、まだまだ予断を許しません。遠足等は2学期にお預けです。一年生も小学生として毎日学校生活を謳歌しています。

さて、人との対話やお付き合いも多様です。「あの人は人格者だ、素晴らしい人だ。」といわれる人の相手は誰でもできます。もう随分経ちますが、ある講演会を主催したときに人格者と言われる方をお呼びして会をもちました。その際に、ある気さくな女性にお茶を出していただきました。彼女は「そんな偉い方に何を話していいかわかりませんし、私には勤まりません、困ります。」と仰いましたが私は構わず「な～に、あの先生はそんな愚か者じゃないから大丈夫。特別、失礼な事さえ言わなかったら結構ですよ。気楽にやってください。」と申し上げて押しつけてしまいました。講演会が終わると彼女は、「あの先生は素晴らしい方ですね。ためになる話をしてくださいました。なんだか私の方が気を遣っていたみたいでした。私、ファンになってしまいました。またこの次もやらせてください。」とニコニコしていました。「そうですね、出来の良い人はそんなものです。」私まで良い気分でした。しかし、「あの人は我が儘だ、自己中心的だ、肩書人間だ」とか「分からず屋、偏屈者だ。」と言われる人の相手は誰でも出来るという訳には参りません。人間の出来ている方でなければ、そのうちに腹が立ってきて喧嘩になってしまう場合も少なくありません。



誰かに腹が立ったとき、「腹が立つうちは、相手とあまりレベルが変わらないんだな。」と思い返してみなくてはなりません。『愚か者の相手は、賢者でなければ勤まらない。』ということを出して、賢者だったらどのように対応するかを冷静に考えてみるのが大切と感じます。現代人は意思の疎通（コミュニケーション力）がとても不得手です。

まずは、ゆっくりとニコニコ笑顔で気軽に挨拶できる、人懐こい人間に育てることが第1ですね。